

年間授業計画様式例

都立狛江高等学校令和3年度 地歴科：日本史A 年間授業計画

教科：地歴科 目：日本史A 単位数：2単位

対象学年組：第1学年1組～8組

教科担当者：（1組：加藤）（2組：伊東）（3組：加藤）（4組：加藤）（5組：若菜）（6組：加藤）（7組：若菜）（8組：伊東）

使用教科書：（改訂版 日本史A<山川出版社>）

使用教材：（図説日本史通覧<帝国書院>）

指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋への開国 ・ 政治秩序の崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鎖国状態にあった日本が、なぜ開国に至ったかを考察させる。 ・ 日米和親条約や日米修好通商条約を初めとする不平等条約に着目させ、その影響について理解する。 ・ 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕府勢力の一掃に至るまでの経過を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界情勢を踏まえ、開国に至る背景を説明できる。 ○不平等条約の内容を説明できるか、また、締結された条約が日本にどう影響をもたらしたか理解している。 ○不平等条約の締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、幕末の政局への影響を考察できる。 	4

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・王政復古と急進的改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の国家的統一過程を考察させる。 ・文明開化による欧米文化の導入と、国民の反応を理解させる。 	<p>○廃藩置県・四民平等・徴兵制・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できる。</p>	7

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな対外関係の樹立と内乱の終結 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえられることができる。 ○近代化の政策の反動としての士族反乱の失敗と、言論による要求実現への展開を理解する。 	9

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動 	<ul style="list-style-type: none"> 政府の強力な中央集権体制の志向のなか，自由民権運動の始まりから近代国家の基盤が形成されていく過程を考察させる。 	<p>○政府の強力な中央集権体制の志向のなか，自由民権運動の始まりから近代国家の基盤が形成されていく過程を考察させる。</p>	2

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月				

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法制定と初期議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帝国議会の成立と、議会のあり方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府の強力な中央集権体制の志向のなか、自由民権運動の始まりから近代国家の基盤が形成されていく過程を考察させる。 ○憲法の特徴、議会と選挙の仕組み、内閣のあり方を通して、戦前の立憲制の仕組みを理解できたか。 	8

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの国際環境と条約改正問題 	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアを巡る国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程を考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から判断できたか。 ○朝鮮を巡る対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 	8

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日清戦争と政党内閣 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日清戦争の原因に、朝鮮問題がどのように絡んでいるか、を理解させる。 ・ 戦争の結果、日本が帝国主義の道をたどるように成ったことを理解させる。 ・ 戦後、政党の成長が、隈板内閣に至った経緯を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝鮮問題が日清戦争の背景となった経緯を理解できたか。 ○ 賠償金のグラフから政府の対応を読み取れたか。 	9

	指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帝国主義と日露戦争 ・ 戦後の国内外情勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦後、列強が中国に進出した過程を理解させる。 ・ 日露戦争が、朝鮮をめぐる帝国主義的な内容を持っていることを理解させる。 ・ 戦後の国内外の諸情勢を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 帝国主義の意味が理解できたか。 ○ 日露戦争の意義が理解できたか。 ○ 戦後の国内外の情勢、朝鮮植民地化・満州進出・辛亥革命・桂園時代など、が理解できたか。 	7

指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命と大正政変 ・第一次世界大戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命の起因を理解させる。 ・産業革命が、軽工業・重工業の順で、日清・日露戦争との絡みの中で、発展したことを理解させる。 ・大正政変の意義を理解させる。 ・第一次世界大戦が日本に及ぼした影響を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の産業革命を近代史の中に位置づけられたか。 ○大正政変が大正デモクラシーにつながるものが理解できたか。 ○第一次世界大戦が、日本に経済的発展をもたらしたことを理解できたか。 	2

指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正デモクラシー ・恐慌の時代と軍部の台頭 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通選挙運動が、どのように結実していったか、理解させる。 ・社会運動の勃興が、女性の地位向上、被差別部落民の介抱、労働・農民運動の発展、社会主義・共産主義運動の高まり、などを引き起こしたことを理解させる。 ・昭和初期の恐慌が、政党内閣の崩壊と国内外の軍部の台頭、国際連盟からの脱退を引き起こしたことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大正デモクラシーが戦後民主主義につながっていることを理解できたか。 ○昭和の恐慌が軍部の台頭を招き、ついには日本を戦争へ導いたことが理解できたか。 	2

指導内容	日本史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中全面戦争と第二次世界大戦 ・戦後世界 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中全面戦争の原因と戦争の経過、日本政府・軍部の対応について理解させる。 ・戦時体制下の日本に於いて、国民の生活について、その実態を理解させる。 ・太平洋戦争の原因・経過・結果について、理解させる。 ・戦後世界と日本との関係を、理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日中戦争の、中国国内での実態、犠牲者、等も含め、理解できたか。 ○戦時体制が完成した結果、太平洋戦争を始めたことを理解できたか。 ○太平洋戦争における、戦場での戦闘の実態が理解できたか。 ○戦後日本が、アメリカを中心とした国際社会の援助・協力によって、発展の基本が確立したことが理解できたか。 	2

年間授業計画様式

狛江高等学校 令和3年度 教科：地理歴史 科目：地理B 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：地理B 単位数：2単位

対象学年組：第1学年1組～8組

教科担当者：1組：佐藤 2組：佐藤 3組：佐藤 4組：佐藤 5組：佐藤 6組：佐藤 7組：佐藤 8組：佐藤

使用教科書：（『高等学校 新詳地理B』〈帝国書院〉 『新詳高等地図』〈帝国書院〉）

使用教材：（『新詳地理資料』〈帝国書院〉）

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	地理情報と地図	◆地理情報システムの基本を理解し、リモートセンシングやGPSなど、現代の社会で広く使われている地理的スキルについての知識を身に付ける。	Classiを通じての課題提出状況の評価、授業態度の評価	2
		◆地理情報システムの基本を理解し、リモートセンシングやGPSなど、現代の社会で広く使われている地理的スキルについての知識を身に付ける。		2
		◆世界地図の特徴をつかみ、時差の計算について、理解する。		2

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	地図の活用と地域調査	◆大縮尺の地図の特徴をつかみ、地形図の見方や読図の方法について身に着ける。	Classiを通じての課題提出状況の評価、授業態度の評価	2
		◆地形図の読み取りを通じて、尾根線や谷線の見方、面積の算出方法などを理解する	定期考査および授業態度等	2
		◆地形図を利用して、地域の変遷の様子を読み取りを理解する。		2

指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6月 世界の大地形と人々の生活 世界の大地形と人々の生活	◆世界の地形の特徴（最高点、最深点、大陸の平均高度など）を理解する。	授業態度等	2
	◆地形を形成する内的営力と外的営力について、その原動力と作用を理解する。		2
	◆プレートテクトニクス理論について理解する。		2
	◆新期造山帯の特徴とその分布について理解する。		2
	◆火山の恩恵と災害について理解する。		2

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	世界の大地形と人々の生活	◆古期造山帯の特徴とその分布について理解する。	定期考査および授業態度等	2
		◆安定陸塊の特徴とその分布について理解する。		2

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
8 月				

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	山地・平野の地形と人々の生活	<p>◆河川がつくる山地・平野の地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する。</p> <p>◆河川の流れて沿って周辺地域の地形とその土地利用が移り変わっていくことを理解する。</p> <p>◆扇状地の特徴と人々の生活について考察する。</p> <p>◆三角州の特徴と人々の生活について考察する。</p> <p>◆河岸段丘と海岸段丘について考察する。</p>	定期考査および授業態度等	2 2 2 2

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	山地・平野の地形と人々の生活	◆海岸付近に見られる砂地形について考察する。	定期考査および授業態度等	2
		◆沈水海岸の種類と特徴について考察する。		2
		◆離水海岸の種類と特徴について考察する。		2
	特殊な地形	◆氷河地形、乾燥地系についてその特徴と分布、人々の生活に対する影響について考察する。	定期考査および授業態度等	2
	◆カルスト地形、サンゴ礁についてその特徴と分布、人々の生活に対する影響について考察する。	2		

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	生活と気候のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ◆気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する。 ◆気候は、気温・降水量・風などの気候要素から構成されていることを理解する。 ◆ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。 	定期考査および授業態度等	2
	各気候と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> ◆各気候帯の各気候区の分布や特徴を理解する。 ◆各気候区で暮らす人々の生活について考察する。 	定期考査および授業態度等	2
				2
				2

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	各気候と人々の生活	◆雨温図やハイサーグラフから気候区の判定を行う。	定期考査および授業態度等	2
		◆各気候帯の各気候区の分布や特徴を理解する。		2
		◆各気候区で暮らす人々の生活について考察する。	定期考査および授業態度等	2

	指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	生活を支える世界の農業	◆センター試験等の過去問を使い実践力を身につける。	定期考査および授業態度等	2
		◆農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。	定期考査および授業態度等	2
		◆企業的農業と穀物メジャーとの関係について理解する。		2
		◆農業の国際化と人々の生活の変化について考察する。		2

指導内容	科目地理Bの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
2月 生活を支える世界の工業 現代世界の地誌的考察	◆さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。	定期考査および授業態度等	2
	◆先進国と発展途上国でさかんな工業の特徴と、その変化について考える。		2
	◆アジア、アフリカ、ヨーロッパについて地誌的な学習を行い地理的見方・考え方を養う。	定期考査および授業態度等	2
	◆地誌的な学習を通じて、それぞれの地域における地域性に着目・考察する。		2

